

[月刊] キリスト教書評誌

本のひろば

出会い・本・人

強いられた恩寵 伊藤 悟

エッセイ

船本弘毅 編

希望のみなもと 船本弘毅

本・批評と紹介

吳寿惠 著

在日朝鮮基督教会の女性伝道師たち

大嶋果織

市橋さら 著

虹を駆ける天使たち 高橋貞二郎

ポール・ブラッドショー 編著／榎原芙美子 訳

礼拝はすべての人生を変えてゆく

越川弘英

菊地 謙 著

この器では受け切れなくて 雨宮栄一

山田耕太 著

フィロンと新約聖書の修辞学 川田 殖

K.G.アッポルド 著／徳善義和 訳

コンパクト・ヒストリー

宗教改革小史 出村 彰

黒木安信 著

嘆きの谷を通るときも 深津容伸

金子晴勇 著

キリスト教靈性思想史 小高 毅

J・ウェスレー 著、A・ルシー 編／坂本 誠 訳

心を新たに 黒木安信

越川弘英、平野克己、大島 力、並木浩一 著

旧約聖書と説教 及川 信

アラン・リチャードソン 著／西谷幸介 訳

仕事と人間 井田昌之

既刊案内

書店案内



4 APRIL
2013

ことばのともしび

神をエネルギー源としているから、
末盛さんは底抜けに明るい。

谷川俊太郎



末盛千枝子 著

夫との死別、幼い2人の子どもを抱えながらの絵本編集者としての活躍、息子の難病と障害、貧しかった彫刻家の父、若くして逝った友、そして震災後にたちあげた「3・11絵本プロジェクト」いわて「のことなど、人生の様々な悲しみと試練、出会いと恵みを、静かな言葉で綴った珠玉のエッセイ集。

3月22日

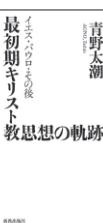
◆四六判・164頁・定価1050円

最初期キリスト教思想の軌跡

イエス・パウロ・その後

青野太潮 著

3月22日



キリスト教はいかなる過程を経て生成・展開していったのか。イエスとキリストとを結ぶ多様な糸を丹念に解きほぐしながら、思想成立の過程に肉薄し、その意義を考察した刺激的論考29編を収録。キリスト教思想の軌跡を問い合わせてきた青野新約聖書学の集大成。

◆四六判・860頁・定価6300円

バルト・セレクション5 教会と国家Ⅱ

カール・バルト著
天野有編訳

3月21日



「福音と法律」「義認と法」「プラハのフロマートカ教授への手紙」など反ナチ教会闘争時代の重要な論考10編を収録。「教会と国家」の問題を考える上で必読の文献の新訳。

◆文庫判・648頁・定価1995円

生誕100年記念出版！ 好評発売中 渡辺禎雄聖書版画集 くすしきみわざ



渡辺画伯（1913-1996）の代表作73点を収めた決定版作品集。

日本の伝統的な型染版画の技法を用いた素朴な美と篤い信仰との結実は国際的にも高い評価を得ています。

解説=神田健次、アン・パイル

◆A4判・定価5250円

韓国のかつてのキリスト教

内部からの対案

崔亨默 著／金忠二訳

「その後の韓国のキリスト教」。富と力を志向するその現実を鋭く批判し対案を提示。韓国で話題を呼んだ問題作。

◆新書判・定価1780円



出会い・本・人

強いられた恩寵——伊藤悟

私は自己のなかに大きな矛盾を抱えている。日々、ことばを扱う仕事をし、学生たちに様々な文献を紹介し、読書を薦めている立場でありながら、私自身は「読書」にずっと苦労してきた。読書好きや活字好きがいて、さらに活字依存があるとしたら、私はどうやらその対極にいる。貪欲に次々と本を読みあさる人を見ると、たとえそれが子どもであっても羨ましく感じる。多くの人には分かってもらえないかも知れないが、かなり苦労しながら読書をしている。大学の研究者としては致命的かもしれない。

幼少期から多くの本に囲まれて育つた。当時の流行でもあつた十数巻にもなる百科事典、五〇巻ほどにもなる児童文学全集が私の勉強机の横にずらりと並べられていた。今思えば、それらを読まなければという強迫観念がいつもあった。しかしそれらのうち何ページを開いたことだろう。一般に多く読まれる児童文学はどうも好きにならなかった。読書感想文のための指定図書も、強いられた読書として、かなり無理をして読んだ。楽しくはなかつた。今でも小説や文芸作品やSFものは苦手であり手にしない。漫

画を読むこともない。読むスピードも遅い。

とはいえる実際には日々、本に囲まれた生活をしている。読まなければならぬ本やどうしても避けて通ることのできない神学書も多くある。気になったタイトルや著者の本は、次々と入手して読むことは読むことは読む。だがそれらは半ば義務的に必要に迫られて読んでいる。仕事としての読書である。じつのところ、けつこう努力をして苦労しながら本や文献と向き合っているのだ。こんな本との向き合い方は正直なところ自分でも辛い。甘えているわけではない。逃げているのでもない。もう少し深いところにある問題——たとえば遺伝性のもの、幼少期のトラウマ体験、自己習癖など——のようだ。もつと自由に読みたいし、読むべきものもたくさんある。だが読めないというジレンマに襲われてもがくことがしばしばだ。

私にとってどんな読書も、つねに「読まねばならない」課された宿題である。しかし強いられた恩寵というものは存在する。宿題であろうと、義務的であろうと、読書を通して養われた信仰がある。新しい価値観や世界がある。数多くの出会いも経験した。強いられなければ聖書も読まなかつたかもしれない。大学教員にならなければまつたく本など読まない人生になつていたかもしれない。

このような紙面で妙なカミングアウトをしてしまつた。本当は読んでみたい本はたくさんある。それらの宿題をこなす努力を何とかしていこう。そこにも強いられた恩寵があるに違いないから。(いとう・さとる)青山学院大学教授

希望のみなもの

わたしを支えた聖書のことば



聖書に支えられた87人の証言
聖書に登場する人々は、決して真面目な落ち度のない立派な名ばかりではありません。失敗し、過ちを犯し、人生を歩んでいた人々が、やさしく笑顔で語っています。その人たちを生かす言葉を聖書は私た方に語りかけています。

船本弘毅

本書の誕生の背後に、東日本大震災があることは言うまでもありません。二〇一一年三月一日、東日本を襲った巨大地震、大津波、福島原発事故は、想像を絶する被害をもたらし、多くの尊い命を奪い、人々の住む家、働きの場を破壊しました。現時点で最も新しい統計によれば（二〇一二年一月九日現在）、死者者一万五千八百七十九人、行方不明者三千七百人、そして数え切れない多くの被災者が、元の生活に戻れないまま冬の日を過ごしておられます。

大震災のあと、多くの言葉が語られました。大地震の苦難と悲しみを共に担おうとすることばと共に、随分乱暴な心ない発言もなされました。神を否定したり、天罰だと決め付けたり、弁解に必死で事実を隠蔽するようなことばが溢れました。そして不幸なことに、言葉への不信感が広がつて行つたようになります。調子の良い政治的発言や、がんばろうという掛け声だけでは、どうにもならない厳しい現実の中で、真実に信頼し得ることばを求めるうめきにも似た声がありました。

そのような状況の中で、今こそ、二千年の歴史の中で読み続

ならないかと思うほどでしたが、飾らず、率直に、聖書と向き合つて語られた魂の証しを、すべて読んで頂きたいと願つて、四〇〇頁の書物になりました。因みに、執筆者は三〇代から八〇代と幅広く、東京が中心になりがちなわが国ですが、東京在住者は全体の四分の一ほどで、地域的に分ければ、北海道を含む東日本から五四人、四国・九州を含む西日本から三三人、男性が六一人、女性が二六人となりました。勿論、お願ひしたかったと思う方はほかにも多くおられますですが、次の機会にゆづらざるを得ませんでした。

寄せられた原稿を、丹念にすべて読めるのは編集者の特権ですが、長く親しい交わりを持ちながら、今迄知らなかつたそれぞの人生の旅があつたことを、改めて知らされました。人は誰しも、喜び悲しみ、失敗し、過ちを犯し、後悔しながら生きています。「生きる望みさえ失つてしましました」（第二コリント一・八）というパウロの叫びに、自分の生を重ねる人も多いと思います。

聖書は崇高な人生を説く宗教書として、優れた賢人が書斎に閉じ籠つて書き上げたものではなく、具体的な歴史の中で生きた人々のありのままの心の叫び、訴え、祈りが記されている書物です。それゆえに、古い書物でありながら、時代や場所を越

えて、今を生きるわたしたちに語りかける力と生命を持つています。

八七名の個性豊かな文章から成る本書を、読みやすくすることを願つて、六つの章に分け、それぞれに題をつけましたが、それは厳密な区分けをしたのではなく、信仰による人生の諸相を言いあらわしたに過ぎません。ですから、どこから読んで下さつても、また折りに触れて取り出して読んで下さつても良いと思います。そして聖書の福音のメッセージに耳を傾けて頂ければと願っています。

『希望のみなもの』という本書の題は、一九九五年一月一七日の阪神・淡路大震災を現地で体験し、当時働いていた関西学院の犠牲者追悼礼拝の式辞を述べるという辛く忘れ難い務めをした時に、最後に引用した聖句から取りました。

希望の源である神が、信仰によつて得られるあらゆる喜びと平和とで

あなたがたを満たし、聖霊の力によつて希望に満ちあふれさせてください

（ローマの信徒への手紙一五章二三節）

（ふなもと・ひろき）東京女子大学元学長

けられ、人類の書として人々を支え続けて来た聖書のことばに聞く時ではないかという思いを強くしていた時、燐葉出版社の白井隆之社長から『わたしを支えた聖書のことば』シリーズに新しい巻を加えたが協力して貰えないかという話が持ち込まれました。わたしは不思議な導きを感じて、編集に携わることになりました。

執筆依頼の手紙には「本書出版の願いは、大震災で被災された方々に直接何かを語ろうとか、意見を述べようとかすることではありません。むしろ、皆様が今まで歩んでこられた、それぞの人生の中での多くの課題と取組みながら、折りに触れ、さまざまの時と場で、また思いがけない出来事を経験なさる中で、お聞きになり、支えられて来た聖書のことばについて、率直にお語り下さることによって、この時代への信仰と愛のメッセージを伝えることがあります」と記しました。

いわゆる著名人のみでなく、人に知られることなく黙々と立派な仕事をしておられる方々にも広く執筆を依頼しました。予想を越えて八七名の方から原稿が寄せられ、二冊に分けねば

日本人必読の書
吳寿恵著

大嶋果織



在日朝鮮基督教の女性伝道師たち
77人のバイブル・ウーマン
吳寿恵著

「一粒の砂を探して」

「どこまでも続く砂浜の、気の遠くなるような膨大な砂粒の中から、きらりと光る一粒の砂を探し出す。歴史研究とはそういうものだとD先生がおっしゃっていたわ」と吳寿恵さんが述べた時のきっぱりした口調をわたしは忘れない。数年前のことである。その頃、吳さんは本書の研究のためにしばしば渡韓されていた。その日もソウルYWCAに資料を探しに行き、一日費やしても得るものが多く、肩を落としてホテルに戻つてこられたのだった。同じホテルに宿しておいたわたしが慰めの言葉をかけると、吳さんは冒頭の言葉をわたしに返された。その言葉の中に、一片の情報を見つけるためにはどんな苦労も厭わない研究者の執念を感じとつて、わたしは自らを恥じたのであつた。

それから一年後、ある集会で再会した時、「ようやく名前が一致したのよ」と吳さんが話しかけてこられた。戦前の在日朝鮮人女性は資料によつては日本名だけしか記されていないことがある。この日本名の在日女性はいったい誰なのか。本名であ

る朝鮮名と、押しつけられた日本名を照合するために、吳さんはささらに時間を費やしたのであつた。

このような地を這うような努力の結果、明らかになつたのが、77人の朝鮮人女性の名前と経歴、その信仰と働きである。吳寿恵さんはそれらを日本と韓国の歴史の中に位置づけ、暴力と搾取が容赦なく襲いかかる日本社会で懸命に生きようとした同胞のために彼女らが為した働きの大きさを示して見せた。それが本書『在日朝鮮基督教の女性伝道師たち——77人のバイブル・ウーマン』である。

「車輪は片方だけでは動くことができません」

77人全ての名前を紹介したいのだが、それは本書を読んでいたぐことにして、ここでは女性伝道師の前史として在日朝鮮教会に関わつた一人の女子留学生を紹介しておこう。それは、第1章「創設期（1908—1924）」に登場する黃愛徳（ファン・エドク）、別名・黃愛施徳（ファン・エスター）である。

一八九二年に平壌で生まれた黃愛徳は、東京女子医学専門学

校で学ぶために一九二七年に来日。留学生達によつて進められていた独立運動に参加するようになる。しかし、そこで直面したのは、男子留学生達の性差別的態度であつた。彼らは女子学生達が「二・八独立宣言」の起草に参加しようとした時、それを阻んだのだ。そんな男子学生を変えたのは黃であつた。黃は「国家の大事を男性だけがやることですか。車輪は片方だけ動くことはできません」と熱弁をふるい、彼らを感動させたという。以後、両者は協力して「二・八独立宣言」の準備に取り組んだ。

こうして整えられた独立宣言文は、一九一九年二月八日、東

京朝鮮YMCAsに集まつた約四〇〇人の留学生達によつて採択され、その写しが多くの学生達によつて本国に持ち帰られ、三・一独立運動に大きな影響を与えた。黄も日本女性に変装して束髪の中に宣言文を隠して本国に持ち帰り、三・一独立運動に参加する。こうして黄の民族解放運動家・女性解放運動家としての活動が始まつた。ちなみに男子学生達を感激させた黄の演説について書き残したのは、当時の朝鮮女子留学生親睦会の会長で、女子学院に留学していた金瑪利亞であった。

歴史から問い合わせられている

在日朝鮮基督教に女性伝道師が登場するのは、黄たちが独

立運動のために本国に帰つてからであり、その働きは黄たち初期の留学生たちは異なつてゐる。しかし、「車輪は片方だけ動くものではない」という黄の主張は、その後も在日朝鮮基督教の女性達に引き継がれ、彼女達を伝道と奉仕のわざに押し出していく。第2章「成長期（1925—1933）」、第3章「自立期（1934—1939）」、第4章「受難期（1940—1945）」と読み進むと、歴史の中から立ち現れてきた77人一人一人が「あなたは車輪の片方として働いている?」、「平等で公正な社会に向けてしっかりと努力している?」と問いかけてくるのがわかるだろう。

吳寿恵さんは、彼女たちの働きと信仰は、在日大韓基督教の今後のビジョンのヒントになると述べているが、わたしは日本との諸教会の方向性を示す土台になると想つた。排外主義がますます露わになつてゐる日本社会において、日本のキリスト者がどのような信仰に立ち、どのような働きをしていかねばならないか、本書を読んで共に確認したいと思う。日本人必読の書である。

（おおしま・かおり＝NCC教育部総主事）

この熱いメッセージを、ぜひ若い人に読んでほしい
市橋さら著

ナイロビの子どもたちと共に生きて 虹を駆ける天使たち

「人は自分のためではなく、誰かのために生きるとき、生きられるのです。与えられた能力は誰かに向かうときに、一〇〇パーセント以上發揮されます。自分でも気がつかなかつた力が出てきます。……こんな生き方ができたら人生はおもしろく、エキサイティングです。」（最終章より）

これは、神とケニアの人々のために生きている著者の言葉である。本書は、この言葉の実践記録であり証しといつても良いであろう。具体例も多く、わかりやすく書かれているので、中学生・高校生から既に社会で働いている人にも、実り豊かな生き方をするためのヒントを与えてくれる。

本書の著者は、ケニアのナイロビにあるキューナ幼稚園とコイノニア教育センターという二つの教育施設を開設し、ケニアの人々と共に生きながら働いていらっしゃる市橋さら先生である。

以下、本書の内容を概観する。一章、二章には、市橋先生が、なぜアフリカの人々のために働くようになったのか。また、初めてアフリカへ行き、ケニア最大のスラムといわれるマザレバ



高橋貞二郎

レーを訪れた時のことが書かれている。三章には、ケニアのナイロビで「サーバント・リーダー（人々に仕えるリーダー）」を育てるためにキューナ幼稚園を開園したこと。さらに、四章から七章にかけては、キューナ教会の設立と、キューナ教会に来る最も貧しい生活をしている子どもたちを対象としたコイノニア幼稚園の開園、小学校教育も行うコイノニア教育センターの立ち上げの様子などが記されている。

コイノニア教育センターの目的は、「一人一人の子どもに、『あなたは神さまから愛されていて、神さまから特別な賜物を与えられている』と伝えること。その賜物を見出し、育てる」と。それらを用いて社会の中で神さまと人々に奉仕できる人

『サーバント・リーダー』を育てる」とある。四章から七章では、コイノニア教育センターの設立のいきさつだけではなく、その目的を遂行するために先生がどのようになさつたか、また、子どもたちや親たちがどのように変わつていったのかも具体的に記されている。読者は、それらを通して著者の奮闘努力と共に、神様は必ず必要を満たしてくださる方であることを

知るであろう。

八章には、ご家族の姿勢などが示されている。ケニアでの生活は、決して順風満帆というわけではなかつた。辛く眠れぬ夜もあつた。しかし、どんな時にも希望を持ち続けることができたのは、イエス・キリストへの信仰と「それでも人生にYESと言おう」という言葉があつたからであるという。この言葉は、ヴィクトール・フランクルの著書のタイトルにもなつてているのだが、どんな状況が目の前に現れても、そこから逃げずに、それを引き受け、「NO」と言わずに「YES」と言つて生きることを意味する。このポジティブな言葉が、ご家族の姿勢である。九章には、夫であり牧師である隆雄先生が見た夢の話が出てくる。その部分を引用してみよう。「天に虹のように大きな梯がかかるつていました。そしてその梯の上を天使たちが行き来しているのですが、よく見るとその天使たちはみんな顔見知りの人たちです。これまで私たちを様々な形で助けてくださつた人

たちでした」。その夢を通して、誰かのために働く時には天使のようになるという著者の思いと、今まで自分たちはそのような人たちに支えられてきたが、自分自身も、誰かのために天使として働きたいという願いがこの章に書かれている。

先日、市橋先生とお会いする機会に恵まれ、本書を通して伝えたかったことを尋ねてみた。すると先生は「神様はどんな時でも絶妙なタイミングで助けてくださること」、「持つているものを分かち合う時、豊かな世界が生まれること」、「どんな人でも、神様に用いられる時に天使のようになる。皆さんにもそんな人生を送つてもらいたいこと」などを伝えたいとおっしゃつておられた。まさに、そのメッセージが本書から熱く伝わってくる。是非、若い人に読んでほしいと思う。

（たかはし・ていじろう）東洋英和女学院中学部高等部宗教主任

（四六判・一九四頁・定価一六八〇円〔税込〕・日本キリスト教団出版局）

神学は語る たとえ話
デイヴィッド・B・ガウラー 駒木亮訳 第3回配本

イエスのたとえ話を巡り、神学者たちが重ねてきた膨大な議論を、歴史的批評、文学的批評、社会科学的批評など大きく七章に分類し、「たとえ話」研究の最先端へ導く。

A5判・200頁・2730円

聖書とキリスト教倫理
W.C.スローン 德田信訳

新約聖書と黙示
S.M.ルイス 吉田忍訳

好評発売中

ローティーン向け伝記シリーズ

**ひかりをかかげて
レイチェル・カーソン
いのちと地球を愛した人**
上遠恵子

地球の悲鳴を聴き取り続けたレイチェル・カーソン。彼女の生涯を、カーソン研究の第一人者が語る。 A5判・128頁・1,260円

第3回配本

**英國の堅実な注解シリーズ
ニューセンチュリー聖書注解
コヘレトの言葉**
R.N.ワイブレイ
加藤久美子 訳

言葉の矛盾という課題に挑みつつ、各単元に注目してメッセージを丁寧に解説。 A5判・304頁・4,830円

第10回配本

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 国内03-3204-0457
E-mail eigoou@bp.uccj.or.jp〔価格税込〕
<http://bp-uccj.jp>

私たちを変え、私たちの人生を変える礼拝
ポール・ブラッドショー編著／千倉志野写真
竹内謙太郎監修／榎原英美子訳

越川弘英



編者のひとりであるポール・ブラッドショーは礼拝学の世界では現在もつともよく知られた人物のひとりである。また奥付によれば、もうひとりの編著であるピーター・モージャーも礼拝学及び教会音楽の研究者である。そしてまたこのふたりは英國聖公会司祭でもある。

そのような聖職者であり研究者である編著によってまとめられたこの本のねらいは、冒頭の「日本語版への序文」に次のようにはつきりと記されている。「私たちがこの小さな本をまとめたのは、クリスチヤン、とりわけ聖公会の信徒のため、毎週参加している礼拝の中で何が起こっているのかをよりよく理解する一助になれば、またそうするとともに深く礼拝に関わるよう後押ししたいと思ってのことです」。(二頁)

それでは礼拝をよりよく理解し、深く礼拝に関わることによつて何が起きるのだろうか。ここで浮かび上がつてくるものが、本書のタイトルにも含まれている「変わる／change」という

テーマである。「よい礼拝」、すなわち「よく整えられており、良く導かれる礼拝、そして参加する人々もよく理解し準備した

うえで行われる礼拝」は、私たちを変え、私たちの人生を変えるものとなる。本書はこのような確信と願いのもとで、礼拝についての神学的信仰的な考察を繰り広げていく。

本書を初めて読んだとき、私が不思議に思つたのは、四部に分けられた構成とその内容の取り扱い方であつた。普通ならば序論なり基礎的なことから始まって、各論なり展開的な叙述へと進んでいくことを予期していたのだが、どうもそとはなつてない。四部構成のそれぞれに「基本的な事柄／basics」「属すること／belonging」「なつてゆくこと／becoming」「信じること／believing」というタイトルが付けられており、各部の中で、洗礼、聖餐、み言葉や祈りといったテーマが繰り返し現れる。そつかと思うと、特定の部でしか扱われていないテーマ、たとえば、葬式、結婚式、とりなしの祈り、信經、聖務日課、伝道といったものが出でてくる。ずいぶんランダムであり、また重複した内容が繰り返されるという印象である。

この点について、日本語版を監修された竹内謙太郎司祭が「解説」の中で述べておられることをヒントにしながら、何度も述べた内容が繰り返される」という印象である。

最後に本書の大きな特徴として文章と共に添えられた写真に言及しておきたい。原著ではロウソクなどキリスト教会の象徴的な事物やさまざまな人物の写真が多用されるのに対しても、日本語版では美しい草花や風景写真によって全編がまとめられていく。不思議なほどの好対照だが、これらの写真に込められたメッセージを本文と共に読み解いていくこと、これもまた本書のおもしろさであり、また読者に課せられた宿題であると言えるかも知れない。

(こしかわ・ひろひで)同志社大学キリスト教文化センター教員
(A5変・五一頁・定価一五七五円(税込)・聖公会出版)

か読み返していくうちに、私なりに思い浮かんだことがある。すなわち、この四部構成は、洗礼や聖餐などといった礼拝の核となるものを多様な角度から何度も捉えなおしつつ、その意味深さを伝えながら、同時にそれ以外の礼拝の行為や要素に順次書き及ぶことによって、キリスト教礼拝の全体像と豊かさを伝えようとしているのではないかということである。本書は全体として、読み進めるにつれてらせん状に上昇していくような(或いは深められていくような)イメージを持っている。同じようなことがらを取り扱つていて、徐々に私たちの視野が高められ広がっていくような印象である。そして「伝道の礼拝」という最終項で終わる本書は、もしかすると再び最初の「基本的な事柄」へと帰つてくることを意図しているのかも知れないと感じた。読み返し読み返しする中で、礼拝とは何かということを学び、「変わる」ことに備えさせようとする意図がこめられているのではないだろうか。礼拝を学ぶための書



★★★
礼拝はすべての人生を変えてゆく
～その働き、その大切さ～
ポール・ブラッドショー編著
榎原英美子訳

現代英国の礼拝学の碩学ブラッドショウは「教会はいつでも本來あるべき姿になつてゆく上にある」と唱える。そんなブラッドショウが若い世代に問いかけた名著の翻訳。全編カラーの美しい映像の中で、礼拝の神髄が語られる。A5変形・52頁・定価1575円
★★★

アダム—神の愛した子
H・ナウエン著／宮本憲訳
大学で神学を講じていたナウエンは、魂の遍歴の末に行き着いたうららしうアダムと出会い、アダムの中に神の存在を見る。改訂新版。四六判・176頁・定価1890円

162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL03-3235-5681/FAX03-3235-5682
nskk-bookshop@company.email.ne.jp

社会のひづみの下で呻く人々と共に
菊地 譲著

この器では受け切れなくて

山谷兄弟の家伝道所物語



雨宮栄一

およそ国家の課題に、国内の産業経済を起こし、国民の経済を潤し、可能な限り国民の間の格差を無くすという課題がある。様々な人間の生活する国である。当然のように勝ち組、負け組が生まれる。その格差を埋める役割が国家にある。しかし国会は充分な手を打てない。それどころか現政権は生活保護費の一割削減を主張し、負け組と言われる人々の生活に圧力をかけようとしている。

現在この負け組といわれている人びとが、集中して生活している場所が、東京では山谷といふところである。一九六〇年代には、二万二千人ほどの日雇い労働者が、東京オリンピックによる建築ラッシュで景気よく働いていたが、今は見るかげもない。労働者の数は減少し、路上生活者、老いた労働者が増加している。

著者である菊地譲牧師は、この山谷の地に三十年あまり入り込み、日雇い労働者と共に生活し、労働し、宣教のために働いた伝道者である。そしてこの書物は、その間、涙と汗で描いた貴重な記録である。

若き菊地譲牧師が山谷伝道を決意した経緯、ひとりの労働者として働いた労苦、次第に人の輪が出来上がり、「木曜礼拝」を中心とする礼拝共同体が出来上がるまでの苦労、「山谷兄弟の家伝道所」建設までの努力、しかも山谷の中で日雇い労働者の最も必要としている「食べ物」、人間として最低限を支える「食べ物」をどのようにして、彼らに支給しうるかという問題、一人一人の路傍生活者を尋ねる深夜給食に始まり、やがて最低の安さで食事を提供する「まりや食堂」の開設への苦闘、考えられないほどの安価な弁当、数多くのボランティアの支援、ともかくこの書物に記されている、三十年余り数々の労苦の連続を、人はある種の感動なくして読むことは出来ない。

この間、菊地牧師と多くの人との出会いがある。山谷に住む人への牧会があり、温かな配慮が必要とされる。日本の普通の教会の伝道と牧会とは、質においては同じであろうが、全く形と、それに払う努力の量は比較にならない。驚くべき労苦がともなう。寄る辺なき人の死もある。この「山谷兄弟の家伝道所」には墓がある。千葉県の片隅にある。血縁関係者から、自分達

の故郷の埋骨を拒否された、六人の人びとの遺骨が埋葬されている。

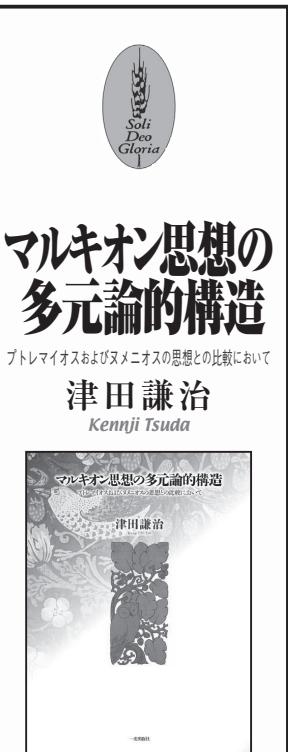
菊地牧師の言葉をそのまま借りると「故あって兄弟の縁を切り、家族の絆を捨て、東京山谷で自らの人生を駆け抜けた人々であつた。生活史をさかのばると、一人一人それぞれが修羅場に近い生き方をしてきている。家族を傷つけ、自らも傷ついて癒す場所もなく、山谷へと自らの生を生かすためにやつて来た。多くは過去のつらさを酒で紛らし、あるものはアルコールに囚われ、ある者は一時の陶酔を求めてギャンブルへと自らの生を燃やし、寂しさを癒してきた。人の一生はすさまじくも悲しいものである。墓の中の人々は、それぞれが小説よりも波乱万丈の人生をその存在において描き切つた。私達の墓はその終着点だ。それは単なるおしまいの場所ではなく、和解と癒しの場である」（一八〇頁）。その通りである。

しかもこの書物の魅力は、菊地牧師がこのような現場において

でも、真剣に聖書と思想を学びながら働いている所である。カミュやレヴィナスを読み、現場の中での旧約聖書のヨブ記の解釈は、学者のそれとは違つて人々の心を打つ。

日本のキリスト教会とキリスト者は、都心に近くありながら、日本の周囲に位置する山谷という場所で、このような宣教の業が行われていることを、この書物を通してもつと知るべきである。そこより学ぶべきである。多くのキリスト者が読まれることを、心からお勧めしたい。

（四六判・一五一頁・定価一五七五円〔税込・新教出版社〕



多神論的な潮流を分析する
日本初の論考！

2世紀のローマで、マルキオンは旧約と新約の神の分離を説き、旧約は救済に関係ないとして新約だけの正典を作成。しかし、これを契機として聖書が正典化されていく。

A5判

定価 4,410 [本体4,200+税] 円
ISBN978-4-86325-055-0



株式会社 一麦出版社

札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

フィロンと新約聖書の修辞学

フィロンと新約聖書の
修辞学

山田耕太著

Rhetoric in Philo and the New Testament

Kota Yamada

川田殖

民主主義のふるさと古代アテネの典型的政治家ペリクレスは、政治家たる者の必要条件として「なすべきことを見抜き（洞察力）、これを言葉に出して説明し（表現力）、ボリスを愛して（愛國心）、金錢の誘惑に負けぬこと（潔白性）」を挙げている（ツキユディス2・60・8）。このうち表現力は、政治だけでなく、法廷でも、その他の集いでも尊重され、弁論術・修辞学として、市民の教養教育の必須課目となり、のちのヘレニズム・ローマ世界でも重視された。この世界の中で宣教伝道に携わったユダヤ教やキリスト教の伝道者の中にもそれが生かされているのは当然であって、このことはユダヤ人哲学者フィロンの著作や新約聖書の書簡の中にも見られる。

著者はこの視点からこれらの文書の修辞学的研究を続けて二十年。すでに『新約聖書と修辞学』その他の著作があるが、それらに続く研究論文を表題の書にまとめられた。

本書はまず「ギリシャ・ローマ時代のパイディア」と修辞学の教育」をプロローグとして、フィロンの修辞学と哲学を典型的な実例に即して具体的に解明する第一部、新約聖書の研究史

の流出をまとめた第二部、これに統いてガラテヤ・フィリピ・第一コリント（一一四章）・ローマの順でパウロ書簡の修辞学的分析を行う第三部、ヘブライ・ヤコブ・第一ヨハネの各文書の修辞学的分析を扱う第四部、および、これらの背景であるギリシア・イスラエルの両思潮の中で福祉思想の根本理念の展望を与えるエピローグから成っている。

こうした整然たる構成の要素たるいちいちの論考は、それぞれ丹念な先行研究への顧慮をふまえて、修辞学の諸概念を駆使した文体分析・構造分析を行うもので、その緻密な手捌きは瞠目に価する。しかしその行文は極めて明晰で、教育的配慮に満ち、蒙を啓かること多大である。新約聖書の書簡中、随所に現れる、私たちにはなじみの薄い、論証の運びや反論の仕方など、当時の修辞学的教養の光とともに照らし出される時、いかなる意味を持つかを知らされ、心ある人は目から鱗の経験をするだろう。そのような人のために本書はまたとない導きとなる。またそのために、巻末の「修辞学用語集」は極めて有用である。

最初にペリクレスの例を挙げたが、それは弁論術・修辞学が政治家たる者にいかに大切な要件であるかを示すとともに、それが他の要件、洞察力、愛國心、潔白性、結びついてこそ正しきつ三十年、今や日本人として直接にこの問題に取り組み、ユニークな形でそれを解説されつつある著書の出現にからの喜びを禁じえない。それまでは多くの日本人が見落していった西洋精神の根本動機を、最も根底的な所から取り上げ、これを取り組む本格的研究のあけぼのだからだ。著者による、また著者を中心とした同志による、研究の推進を切に祈りたい。

フィロンについて一言つけ加えれば、筆者はかつてその著作を拾い読みしながら、その聖書解釈に、ユダヤ伝来の信仰に加えて、ギリシア哲学の影響のあることを感じ、これがのちのキリスト教教父の聖書解釈や弁証論、さらには中世スコラ哲学の思考契機になつてゐるのではないかと考えていた。この思いを抱きつつ三十年、今や日本人として直接にこの問題に取り組み、

（かわだ・しげる）元日本聖書学校校長

（A5判・三四七頁・定価六六一五円（税込）・新教出版社）

ヨハネによる福音書 説教と黙想
及川信
Shin Oikawa



ヨハネ福音書を愛した新約学者
松永希久夫の教えに基づく
「教義と黙想」から生み出された
綿密な講解説教。
二つの奇跡は、
あなたに、
何を語りかけているのか。

四六判
定価 1,995 [本体1,900+税] 円
ISBN978-4-86325-054-3

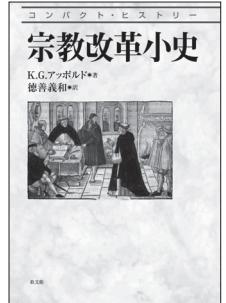


株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

新世代の視点が冴える
K・G・アッボルド著
徳善義和訳

コンパクト・ヒストリー

宗教改革小史



出村 彰

原題では、*Reformation: A Brief History*、邦訳の書名では「小史」とある。しかしながら、コンパクト・ヒストリー・シリーズの一端だけに、コンパクトの原語義「ぎつしりと詰め込まれた」にまことにふさわしく、単なる略史ではない。これまでも決して少なくない宗教改革略述を予想して読み始めると、再読、三読を強いられることは必定である。

評者がます言いたいのは、本書が「第三世代」の宗教改革史記述だということである。二十世紀半ばまで、いわば伝統的記述だった、あえて例示すれば、英語圏ではブリザード・スマス、独語圏でならシューベルトなどの記述法、あるいは評者らが教会史の手ほどきを受けた頃の宗教改革史を第一世代としよう。ところが、ジョージ・ウィリアムズやベインントン、さらにペリカンなどによって「宗教改革」の包括概念が一気に拡張され、宗教改革の多様・多義・多重性が強く意識され、加えて、経済史、社会史、女性史など、原資料に手堅く立脚した緻密な研究が次々に公刊されるのが第二世代である。これらの成果をしつかりと踏まえながら、宗教改革を特定の時代に限定すること

となく、原義にふさわしく「キリスト教の不斷の自己改革」として捉えたのが本書である。

原著者の「略歴」そのものも、新しい時代の到来を暗示するかのごとくである。ドイツ生まれのアメリカ人、上記の宗教改革史転換を招來したペイントンらの学統を引くイエール大学で学位を取り、ドイツに学んで教授資格を得てヨーロッパ各地で教鞭を執つた後、今はプリンストン神学校に在勤する一九六五年生まれの新進気鋭とある。両校で学んだ評者がいちおう学業を終えたのは一九六四年だったので、けだし羨望と贊嘆の念以外にない。極言すれば、本書は今後とも「絶えず新たに改革され続ける宗教改革史」の象徴、あるいは先駆けともなるだろう。

全体の章立て、その表題の付け方がすでに暗示的である。一中世キリスト教化の諸相、二 ルターのできごと、三 宗教改革は改革する、四 宗教改革が打ち建てたもの、最後に短いエピローグとして、宗教改革の遺したもの、となる。頁数にこだわるわけではないが、全体の約半分がルターと北欧を含むルター派教会の形成に割かれているのは、原著者の専攻分野からす

もそうであろう。その意味では、十六世紀の宗教改革は他の時代と特に顕著に懸絶した「歴史の曲がり角」だったわけではない。現代でもグローバルには、世界人口の大半は土地で生きる「農村」なのである。

それではすべての歴史的事象の相対化に終わらないか、という疑念が出るかもしれない。しかし、福音はその本質よりして他者——究極的には「神」という絶対他者——と出会い、厳しく問われつつ、新しい自己確認（救い）に到達する過程ではないだろうか。原著者の基本的立場によれば、「この世のキリスト教化」はいまだに進捗中のプロセスである。それは単純に、万人がキリスト教徒になるという意味ではなく、福音が投げかける永遠の問い、個と普遍、ローカルとユニヴァーサル、時と紀宗教改革は、この意味では今後とも世界史的意義を持ち続けるのである。

この小著をあえて、第三世代の宗教改革史と呼ぶ論拠もここにある。「百聞は一読にしかず」の感を深めた快著である。

（でもら・あきら）東北学院大学名誉教授
(四六判・三四〇頁・定価一八九〇円(税込)・教文館)

嘆きの谷を通るときも

詩編に聞くII



深津容伸

本書は「詩編に聞くII」という副題のもとで、詩編五一編から一〇〇編までを解説している。我々が詩編から学ぶのは、たとえ苦難の中につても神と向かい合い、絶対的とも言える信頼をもつて祈る詩人たちの信仰である。その点本書では、この本質が余すところなく深く汲み取られているといえる。詩編には（もつとも旧約聖書自体がそうであるが）イエス・キリスト、そして彼の十字架での死と復活による罪の贖罪という福音が表現されていない。このことについて著者は福音信仰の光のもとで詩編を読むようにと勧めている。本書を読むことによって学ばせられるのは、キリストの福音の恵みがいかに大いなるものであるかということである。詩編を通してなされるキリスト者の默想はかくあらねばならないと思わせられる。

以上との関連で、キリスト教徒が詩編を読む上でどうしても引っかかるのは、敵への報復を徹底的に願う祈りが多いことである。それに反してイエス・キリストは敵を愛し、敵のために祈ることを命じている。詩編はこの点では福音的ではない。これについて著者は、詩編の限界を指摘しつつも、神による公平と正義を願う祈りと受け取るように勧める。究極的には、そのことを通して悪人が悔い改めることを求めるものである。そしてそれは、キリスト教信仰の光を通して見るならば、キリストの贖罪へつながるものである。

以上の点で、本書は旧約の詩編という書物をキリスト者にとっても、キリスト教会にとっても、身近で、福音信仰にとって重要な書物に位置づけているといえる。そしてその観点から、それぞれの詩の解説に際しての表題にも工夫がこらされている。また、参照される参考文献も多岐にわたっており、詩編の読みを深める上で有効に使われている。

詩編を学問的に見る時、大きな問題は、時代背景をつかみづらいという点である。一応背景を示す表題が付けられてはいるものの、それらは学問的信憑性を持っていない。またそれぞれの詩は時代経過の中で付加されてきている可能性も高い。時代背景が明らかならば、それぞれの詩をそこに当てはめて具体的に解釈することも可能であり、実際に注解書ではそれを行なっている。しかしその時代設定は、当然ながら解釈者によつてま

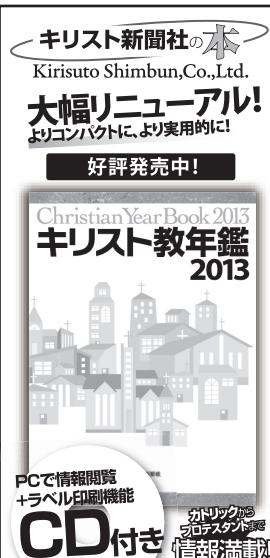
この洞察は、詩編五一編を初めとして、本書の様々な部分で展開されている。こうした理解の深さの背景として、著者が長年にわたり、刑務所の教説師を務めてこられたことと無関係ではないのでは、と思われる。それと同時に、こうした洞察が、全編に流れる強烈な福音信仰のもとでなされていることはさらに重要である。

本書は、教会の祈禱会等各種集会はもちろんのこと、個人の默想のためにも有効に使われるものと期待される。

（B6判・二三三頁・定価一七八五円（税込）・教文館）

ちまちであるのが現状である。ここで、学問的には捨て去られているような表題ではあるが、もう一度見直してみる必要がある。特に本書のように、読者を默想へと導く場合はそうである。なぜなら詩編は、そこに付されている表題（詩が作られたとされる背景）のもとで読まれ、默想され、歌わってきたからである。この点で本書は、背景としての表題をしつかり踏まえつつ、その限界も指摘し、それを越えた意味を探っている。表題はその詩をより深く読むために付されたものといえるので（もちろん通常言われているように、詩に長けたダビデ王に帰すことで権威づけたともいえるが）、これは重要な作業である。

筆者は以前に著者の『起きよ、光を放て——クリスマス・イースター説教』の書評をさせていただいたことがある。その時に強く印象づけられたのは、著者の罪理解の奥深さだった。人間はどうして罪を犯すのか、罪を犯した結果、人間はどのようになっていくのかについて、著者は鋭い洞察を持つておられる。



CD付き 情報満載！
CDの使用は
Windows/Macに対応
現在、Mac OS X v10.6以降における
使用がサポートされていないため、この
問題の修正に取組んでおります。
Mac OS X v10.7以降に対するアップ
グレード版はキリスト新聞社ホームページ
よりダウンロードしてお使いください。
ただし、ようやく昇格し準備を整めて
おります。提供開始の時期につきまし
ては、準備が完了しましたら、「キリスト
新聞社」と社名ホームページにて
ご案内いたします。大変申し訳ござい
ませんが、今しばらくお待ちください。

キリスト教年鑑
2013
地図から簡単に、
瞬時に教会を探し出します！

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町15-51
和光プラザ2階
TEL 048-424-2067（税込）
E-Mail: support@kirishin.com
URL: http://www.kirishin.com

B6判 CD付き 840頁・2600円

「キリスト教的人間論」の通史
金子晴勇著

キリスト教靈性思想史



小高 毅

たいへんな力作である。本書のカバー帯にうたわれているとおり、たしかにキリスト教靈性に關して「日本語で初めて書き下ろされた通史」であろう。著者自らが「あとがき」で書いておられるところ、本書は聖学院大学大学院で行なわれた講義を元に三年間かけて書き上げられたものである。著者は処女作である『ルターの人間学』から本書の前作にあたる『ヨーロッパの人間学の歴史』に至るまで一貫してキリスト教的人間論を探求し、数多くの著書を刊行してこられた方である。その意味で著者のこれまでの御研鑽の集大成とも言えよう。

本書の表題は「靈性思想史」となっているが、「靈性」という言葉に惹かれて本書を購入し、読み始められた方のなかには違和感を覚えた方もおられると思う。それは「靈性」という言葉の捉え方の違いによるものであろう。そのような方は「キリスト教的靈性」ではすべてにおいて神の恵みを中心とする受動的他力思想が基本であると考え、「恩恵としての靈的体験」とまでは言わなくとも「恩恵としての靈的体験」の論述を期待したことによるものではあるまい。

そもそも「靈性」という概念はギリシア・ラテン世界の「靈・精神」の概念と聖書の「神の靈」の理解との集約であるとともに、近代フランスにおける「創造的な靈的・知的活動としての靈性」とが複雑に絡み合つており、訳語の選定が難しいことが指摘されている。そのことはフランス語で刊行された靈性史の邦訳の表題として「神秘思想史」という語が選ばれることにも表れているといえよう。

そのような状況を踏まえて著者は、ヨーロッパのキリスト教思想史において哲学的な心身の二区分とは別に、『靈・魂・身體』の三分法が説かれてきたが、それはパウロの「テサロニケ書五・23」の「あなたがたの靈も魂も體も何一つ欠けることないよう」に」という言葉に由来し、オリゲネスを経て西ヨーロッパの伝統的な見解になつたと指摘する。そして、ここでいわれる「靈」は「實体である魂に所与として認められる特別な機能であり、しかも廣義の精神に所属する宗教的機能である。(中略)『靈・魂・身體』の三分法を心の認識機能という観点から考察するならば、それは靈性・理性・感性という三つの基本

的作用とみなすことができる」と指摘、「キリスト教の思想史を通してこの「靈性」が「理性と感性」に関わりながらどのような思想を生み出してきたか」を解明することを目指したのが本書であると自ら述べている。したがって、本書は「キリスト教的人間論」の通史であると言つてよからう(五四三頁)。

そして、この「靈性」は「それによつて人間が永遠者なる神との関係を生きる機能」、「道徳や倫理を超えた靈的な生命」であり、「神から来る愛を受容して生きる」ものであり、この「受容能力」こそが靈性である。そのような靈性の深化は「力強い実践への原動力」となり、「自己」愛を否定し他者に向かう「愛のわざ」にキリスト教的靈性の特質を向かわせると指摘される。著者のこのような洞察は、カトリック、プロテstantoを問わず、多数の哲学的な思想家や神秘主義家の研究に向かわせ、極めてエキュメニカルな論考となつてゐる。

ギリシアと聖書における靈性が論じられた後、教父時代、中

世のスコラ時代の代表的な思想家、女性神秘家、「新しい敬虔」運動、宗教改革者たち、スペインのテレサや十字架のヨハネ、十七・十八・十九世紀のイギリスならびにドイツの思想家たち、さらにはシェーラー、プレスナー、ティリッヒからトーマス・マートンにいたる多数の著作家の主要な著作が論考されている。読了して驚きを禁じ得なかつたことは、本文に付された参考文献ならびに脚注に上げられた著書の多くが邦訳され、公刊されていることであり、著者がそれらを十分に活用されていることである。もちろん、著者は邦訳されていない重要な作品を多数あげ、自訳で紹介していくださつてゐるが。

(おだか・たけし)聖アントニオ神学院教授

(A5判・60頁・定価五六七円(税込)・教文館)

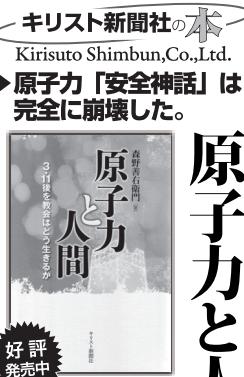
キリスト教カウンセリング講座ブックレット別冊

災害とこここのケア その理論と実践

実践

キリスト教カウンセリングセミナー編
斎藤友紀雄 賀来周、藤掛明(著)

災害におけるこここのケア
について、心理面ならびに信仰面での牧会的配慮に関する知識および実践面でのガイドブック。



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶キリスト教信仰による災害への取り組みと実践



好評
発売中

■A5判・14頁・1260円

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町15-51
和光プラザ2階
TEL 048-424-2067(税込)・教文館
E-Mail support@kirishin.com
URL http://www.kirishin.com



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶原子力「安全神話」は完全に崩壊した。

原子力と人間

森野善右衛門(著)

3・11後を教会は生きるか

好評
発売中

■四六判・202頁・1680円



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶キリスト教カウンセリング講座ブックレット別冊



好評
発売中

■A5判・14頁・1260円

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町15-51
和光プラザ2階
TEL 048-424-2067(税込)・教文館
E-Mail support@kirishin.com
URL http://www.kirishin.com



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶原子力「安全神話」は完全に崩壊した。

原子力と人間

森野善右衛門(著)

3・11後を教会は生きるか

好評
発売中

■四六判・202頁・1680円



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶キリスト教信仰による災害への取り組みと実践



好評
発売中

■A5判・14頁・1260円

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町15-51
和光プラザ2階
TEL 048-424-2067(税込)・教文館
E-Mail support@kirishin.com
URL http://www.kirishin.com



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶原子力「安全神話」は完全に崩壊した。

原子力と人間

森野善右衛門(著)

3・11後を教会は生きるか

好評
発売中

■四六判・202頁・1680円



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶キリスト教カウンセリング講座ブックレット別冊



好評
発売中

■A5判・14頁・1260円

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町15-51
和光プラザ2階
TEL 048-424-2067(税込)・教文館
E-Mail support@kirishin.com
URL http://www.kirishin.com



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶原子力「安全神話」は完全に崩壊した。

原子力と人間

森野善右衛門(著)

3・11後を教会は生きるか

好評
発売中

■四六判・202頁・1680円



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶キリスト教信仰による災害への取り組みと実践



好評
発売中

■A5判・14頁・1260円

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町15-51
和光プラザ2階
TEL 048-424-2067(税込)・教文館
E-Mail support@kirishin.com
URL http://www.kirishin.com



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶原子力「安全神話」は完全に崩壊した。

原子力と人間

森野善右衛門(著)

3・11後を教会は生きるか

好評
発売中

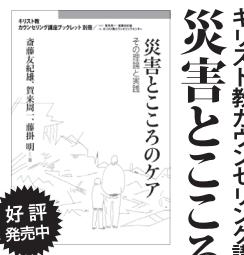
■四六判・202頁・1680円



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶キリスト教カウンセリング講座ブックレット別冊



好評
発売中

■A5判・14頁・1260円

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町15-51
和光プラザ2階
TEL 048-424-2067(税込)・教文館
E-Mail support@kirishin.com
URL http://www.kirishin.com



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶原子力「安全神話」は完全に崩壊した。

原子力と人間

森野善右衛門(著)

3・11後を教会は生きるか

好評
発売中

■四六判・202頁・1680円



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶キリスト教信仰による災害への取り組みと実践



好評
発売中

■A5判・14頁・1260円

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町15-51
和光プラザ2階
TEL 048-424-2067(税込)・教文館
E-Mail support@kirishin.com
URL http://www.kirishin.com



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶原子力「安全神話」は完全に崩壊した。

原子力と人間

森野善右衛門(著)

3・11後を教会は生きるか

好評
発売中

■四六判・202頁・1680円



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶キリスト教カウンセリング講座ブックレット別冊



好評
発売中

■A5判・14頁・1260円

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町15-51
和光プラザ2階
TEL 048-424-2067(税込)・教文館
E-Mail support@kirishin.com
URL http://www.kirishin.com



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶原子力「安全神話」は完全に崩壊した。

原子力と人間

森野善右衛門(著)

3・11後を教会は生きるか

好評
発売中

■四六判・202頁・1680円



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶キリスト教信仰による災害への取り組みと実践



好評
発売中

■A5判・14頁・1260円

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町15-51
和光プラザ2階
TEL 048-424-2067(税込)・教文館
E-Mail support@kirishin.com
URL http://www.kirishin.com



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶原子力「安全神話」は完全に崩壊した。

原子力と人間

森野善右衛門(著)

3・11後を教会は生きるか

好評
発売中

■四六判・202頁・1680円



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶キリスト教カウンセリング講座ブックレット別冊



好評
発売中

■A5判・14頁・1260円

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町15-51
和光プラザ2階
TEL 048-424-2067(税込)・教文館
E-Mail support@kirishin.com
URL http://www.kirishin.com



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶原子力「安全神話」は完全に崩壊した。

原子力と人間

森野善右衛門(著)

3・11後を教会は生きるか

好評
発売中

■四六判・202頁・1680円



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

▶キリスト教信仰による災害への取り組みと実践



好評
発売中

■A5判・14頁・1260円

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町15-51
和光プラザ2階
TEL 048-424-2067(税込)・教文館
E-Mail support@kirishin.com
URL http://www.kirishin.com



好評
発売中

■四六判・202頁・1680円

生きて働く信仰を学ぶ最上の手引き
J・ウェスレー著、A・ルシー編

J・ウェスレー著

坂本
誠記

心を新たに

今年はジョン・ウエスレーが誕生して四十七のいい三〇年召天して二三二年になる。英国人にしては小柄な体を駆使してキリストへの愛に燃え、馬や徒步で町々を巡り、各地で説教し、信徒の生活訓練や指導に当たり、貧しい人々のための学校や福祉施設の設立にも奔走した。彼が旅行した距離は約三五万キロ、五〇年間に四万回を超える説教をしたと伝えられている。

本書は、そのウェスレーの膨大な著作の中の、『ジョン・ウ

エスレー著作集 第五七卷、新約聖書注解、
標準説教
から主に引用されている。一頁ずつ三六六日で読めるように工
夫され、その日の個所には聖句とテーマが付けられている。
本書において繰り返し語られていることは、聖書と聖靈の光
に照らして自らの信仰の在り方を見つめ、吟味することである。
そして示された内なる罪を神の前に悔い改め、キリストの十字
架による赦しと聖別を受け、新しく造り変えられること。この
悔い改めの必要については、随所に取り上げられている。
私たちが悔い改めなければならない罪とは、「内に深く根差
した腐敗」（2月1日）であり、「不信仰」、「虚しさ」、称賛され

際的な変化を意味します」。「義認は子とすることによつて私たちの神との外側の関係が変化することです。義認は敵との関係も変化させます。新生によつて私たちの内側の魂は変化し、罪人である私たちは聖徒とされます。義認は神の好意を回復し、新生は神の像を回復させるのです」（8月12日）と。

この点で「関係的な変化」(Relative change)と「実際的な変化」(real change)について、ウエスレーの『説教19』「神より生まれた者の偉大な特権」、「説教43」「聖書における救いの道」に詳しい。言うまでもなく、ウエスレーの述べる「新生」(new birth)とは聖化(ホーリネス)のことだ。そこにはウエスレーが常に語っているように、聖靈によってめたらみされる「心と生活」の実質的な変化のことである。

書的聖めを明快に語っているものとしてよく知られている。本

7172
ネウ・ル・タン著
金本美恵子訳
-*ヨベル
鉄人」と呼ばれた受刑者
由レーベン

金本美恵子 訳
「鉄人」と呼ばれた愛
憎やまじりの恋物語

刑者か
著

甲○著

好評発行中！

7172

黄土と木の葉による書道の世界

ネヴィル・クーパー著
Neville Cooper著

元クリスチヤンのアーティストが、心から感動した
「アーティストの心」

このドアに差し込まれたのは
カトリック音楽の紙だった。

凶悪犯罪者を収監することに確実な助け手を紹介してくれます……

囚人番号を2監。『鉄人』と呼んで脱獄と逮捕を繰り返しつづけた
14年を過ごした男が、神と出会い、神のしもべとなつてゆくまでの

練馬神の教会副牧師、元クリスチヤンの学生会会長の事

安藤理恵子

いたいといふ思い、野心、貪欲、肉の欲、目の欲、高情性、一怒り、らは魂を多くの悲しみで突き通し、防がないと魂を永遠の滅びに突き落とすことになります」（以上、2月2日）と警告している。

神の恵みをさらに獲得したいと願つてゐる人はすべて「主の晩餐にあずかる」という「恵みの手段」を用いることが繰り返し勧められている。彼は、「私は死ぬ日まで恵みの手段を信頼します」（2月26日）と述べている。そしてキリスト者の信仰が成長できない最大の原因是、「自分を捨てることと十字架を背負うことが常に欠如していること」（9月21日）であると指摘する。特に、「自分の内部の罪と決別しようとしているから」（同）であると。

なぜそうしたことになつていくのかについてウエスレーは、義認と新生があいまいにされてゐるからと言う。「義認と新生は単純に区別されます。それらは同じではなく、かなり異なつた本質を持つつているのです。義認は関係的な変化を、新生は実

書でもこの「心の割れ」が強調されている（9月29日、30日、10月2日、他）。ウェスレーは、「内的・外的な聖性を生み出さない信仰は眞実のキリスト者の信仰ではありません」（4月5日）とまで言い切っている。そこに生涯、聖書的「キリスト者の完全」を主張し、証しし続けたウェスレーの生きて働く信仰とその実質がうかがえるのである。本書に毎日を導かれていくなら、素晴らしい至福のデボーションの時が与えられるはずである。

最後に、ウェスレーの素晴らしい祈りを紹介しておきたい。

「主よ、キリストが私たちを愛されたように、行いと眞実によつて互いを愛することができるように最善に導いてください！」（10月25日）。訳者の多大のご労に感謝しつつ。

（原書名：「The Power of a Prayer」著者：ジョン・エリザベス・マーティン）

（A5判・四〇〇頁・定価）九四〇円（税込）・教文館
（くるき・やすのぶ）ウエスレーンの素晴らしい祈りを紹介しておきたい
よ、キリストが私たちを愛されたように、行いと眞実に
て互いを愛することができるようになんと最善に導いてください
」（10月25日）。訳者の多大のご労に感謝しつつ。

黑木安信

山下萬里○著
死と生
教会生活と礼拝
古代イスラエルやギリシアの生死観から
キリスト教信仰における死と復活の理義
までを精察しながら、キリスト教信仰の
根幹を平易に解き明かす。巻末に附録。
＊ヨベル新書 007・272 頁・1,470 円 (税込)

あかし文章道
への招待 池田 勇人・

文章力を極める！ ぐんぐん文章がうきくなる、あかしする言葉が豊かになる
そんな入門書が登場！ 自分史や手紙を書くことで極め細かい配慮に満ちた好著
＊ヨベル新書 012・256 頁・1,050 円 (税込)

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒 113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858

＊自費出版の専門出版社＊

旧約抜きに、新約で説教することは難しい
越川弘英、平野克己、大島力、並木浩一著

旧約聖書と説教



及川 信

この度、『旧約聖書と説教』という魅力的なタイトルの書物が出版された。日本旧約学会「公開シンポジウム・旧約学と説教」（二〇一一年十一月）の記録である。なぜこの書名を魅力的と感じるのかと言えば、「旧約聖書で説教することは難しい」という思いがあるからに違いない。しかし、新約聖書には旧約聖書からの直接間接の引用が数多くあり、旧約抜きに新約がないことは明らかである。つまり、「旧約聖書抜きに、新約聖書で説教をすることも実は難しい」はずである。

牧師が旧約聖書の説教を敬遠する理由の一つは「旧約学の難しさ」にある。しかし、「文献学的批判をも厭わない聖書釈義が説教に使えるかどうかは、説教者の力量に大きく依存する」（九九頁）と言われば、頷くしかない。私たち牧師は毎週、聖書釈義と默想において力量が問われる。その力量を上げるために本書は有益な書物である。発題であるが故に、語り口がやさしく読みやすいことは有り難い。

一、「今日の礼拝と説教における旧約聖書の位置づけと活用」（越川弘英）では、明治期から現代の教会における説教の三つ

の型と旧約聖書の用いられ方についてデーターが提示され、興味深いものになっている。

二、「教会の礼拝説教と旧約聖書——アメリカの説教学の変遷と重ね合わせながら」（平野克己）は、旧約聖書を欠落してしまった信仰の危険性の指摘から始まり、アメリカにおける説教の変遷を紹介しており、説得力がある。二つの説教例も参考になる。

三、「預言者の想像力と説教——旧約学と説教の接点を求めて」（大島力）は、イザヤ書の実例を通して、豊かなイメージを語ることによって聞き手をリアリティの中に招き入れる説教の可能性が語られる。長年、旧約学に取り組みつつ礼拝で説教をしてきた実績が滲み出ている。

四、「旧約学と説教——総論とヨブ記のアントニーフラシス「語意反用・筆者注」」（並木浩一）は、それまでの発題を総合さらに深化させていく。

発題の前半には、聖書と説教、学問と信仰の関係に留まらず、聖礼典、聖霊、選び、民族、個人などの広大にして深遠な世界

と見出し、信仰共同体に、聖書テキストが本来有している活力をもたらすことができるのではないかと考える」（大島）。『聖書は当然にも想像力概念を知らないが、想像力を駆使して書かれている。それを発掘するのは読み手の想像力である。想像力を豊かに働かせた説教は聞き手の想像力を刺激するであろう』（並木）。『想像力』に関しては、平野氏や大島氏も言及しているように『聖書の想像力と説教』（並木浩一著、キリスト新聞社）が必読の書である。

聖書の「真実」を伝達すべき説教者が、想像力を鍛えて、聖書の世界の内部で見たこと聞いたことを、礼拝の中で生き生きと語るために、本書を読むことは必須のことだと思う。

（おいかわ・しん）日本基督教団中渕谷教会牧師

（A5判・二八八頁・定価二二六〇円（税込）・日本キリスト教団出版局）



夢と幻視の宗教史 〔上巻〕

河東 仁 編

●A5判上製 本体5,000円+税

高井啓介夢の語りとことばの遊戲——ヘブライ語聖書の「夢」解釈の技法／吉田京子12イマーム・シーア派の夢議論／鈴木桂子夢の拒絶と夢への憧れ——ヒルデガルト・フォン・ビンゲンの幻視／高橋原ユング心理学的觀点からの夢の解釈／大澤千恵子児童文学と夢——子どもの夢によって開かれる“生きたファンタジー”／他10篇を収録。

ISBN978-4-86376-027-1

LITHON〔リトン〕

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

安易な回答を避け聖書に即して考える

アラン・リチャードソン著

西谷幸介訳

仕事と人間

聖書神学的考察

「仕事と人間」。大きなテーマである。生きていくために仕事をしてお金をかせぎ、それによって生活する、あるいは社会的動物として社会を構成しつつ活動をする、あるいは現代人として企業活動の中で企業・組織の方針の実現の歯車としての歩みつつ自分の人生を織りなしていく我々。

原書のタイトルは、『The Biblical Doctrine of Work』。簡潔にして力強い。「聖書では『人のわざ』を何だと説いているか」とでもいうべきか。Biblical Doctrineであるから、キリスト教「初心者」に対するおもねりも遠慮もない、どう考えるのかをズバッと書いてくれている。しかし、内容は実際に直面するような課題について聖書的な解釈をわかりやすく我々に教えてくれる。また、いかなる特定の問題についても一つの視点は存在しない、とも述べ、読者に解釈を投げかける姿勢も貫かれていく。そして、神の創造のわざ、キリストのわざ、そして人間の仕事の三つをとりあげて、聖書の中での記述、労働、仕事と罪、信仰義認、奉獻、さまざまなキーワードをとりあげて、約一五〇ページの中で旧新約聖書の語るところを明かしてくれる。

書評者にとつて、第11節が中核と感じる。「仕事に関する聖書の教えの普遍性と限定性」がそのタイトル。あつさりと本質を語ってくれていると思う。次は本文から。「……以上が仕事の救済をめぐるキリスト教の教えです。これはキリスト教徒でない人々やキリスト教徒のつもりでいる人々には魅力的には響かない教えです。……キリスト教が社会や産業や経済の病状を癒してくれる特効薬として推薦されてきた、ということをしばしば聞くのですが、しかし、新約聖書にそのような考え方を奨励する箇所はどこにもありません」。そして11節は次で結ばれている。「ですから、神学者はこの問題（書評者註：近代産業社会の問題）の探求を、近代の産業界において現実に責任を追つている人々に委ねなければなりません」。

きわめて明快なスタンスで、ともかくもキリスト教に解を頼もうとする弱い依頼心をばつさりと切り捨ててくれる。同時に、二千年の間に培われてきたキリスト教の言わんとするところを明かしてくれる。人は生まれ、天に召される日まで、笑い、泣き、楽しみ、悲しむ。この「わざ」はあらゆる人が普遍的に



井田昌之

書評者にとつて、第11節が中核と感じる。「仕事に関する聖書の教えの普遍性と限定性」がそのタイトル。あつさりと本質を語ってくれていると思う。次は本文から。「……以上が仕事の救済をめぐるキリスト教の教えです。これはキリスト教徒でない人々やキリスト教徒のつもりでいる人々には魅力的には響かない教えです。……キリスト教が社会や産業や経済の病状を癒してくれる特効薬として推薦されてきた、ということをしばしば聞くのですが、しかし、新約聖書にそのような考え方を奨励する箇所はどこにもありません」。そして11節は次で結ばれている。「ですから、神学者はこの問題（書評者註：近代産業社会の問題）の探求を、近代の産業界において現実に責任を追つている人々に委ねなければなりません」。

きわめて明快なスタンスで、ともかくもキリスト教に解を頼もうとする弱い依頼心をばつさりと切り捨ててくれる。同時に、二千年の間に培われてきたキリスト教の言わんとするところを明かしてくれる。人は生まれ、天に召される日まで、笑い、泣き、楽しみ、悲しむ。この「わざ」はあらゆる人が普遍的に

なう。また、人は助け合って生きるものだ、あるいは他の人のために尽くせ、あるいは、働くというのは「はたの人を楽にすることだ」などとも言われる。「仕事」の前に、生きていくこと、そのものが人間の仕事である。

愛の宗教とも言われるキリスト教では、すべては神と人間の間の関係として説かれる。聖書には、「キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようになさい。知恵を尽くして互いに教え、諭し合い、詩編と賛歌と靈的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい」（コロサイ3・16）とあり、このことと社会人として、あるいは職業人として歩むことの課題が目の前に存在する。キリスト者として歩む者が、どうやって、時に相反すると思われる選択の場面に遭遇する信仰生活と職業生活を共存させるか、大きな課題である。

あるいは、資本主義はキリスト教の影響を多大にうけている、一生懸命働いて、儲けて、そしてたくさんはんどくなさい、と

いうのが中核だとも言われたりする。人はその一生で何のために、どんな毎日を送るのか？ 永遠の課題である。

訳者は、青山学院大学大学院のビジネススクールである国際マネジメント研究科で、当該分野の教授を同僚として、日々、研究と教育に携わっている。ビジネススクールは社会人を中心としてビジネス実務を扱っている。その点でも、本書は、一般の読者を意識して翻訳が進められていることが十分にうかがわれ、また、訳者あとがきにはその訳者の思いが記されている。冒頭には、原著者とその神学的位置を知る土戸清氏の解題がつけられており、原著者に思いをはせることができる。一九五二年に著された本書は今も時代におもねることなくその言わんとするところを読者に語ってくれる。

（いだ・まさゆき＝青山学院大学大学院国際マネジメント研究科教授、日本基督教団柏江教会会員同教団西東京教区當選委員）

（新書判・一五六頁・定価二三五五円（税込）・新教出版社）

聖書歴史地図

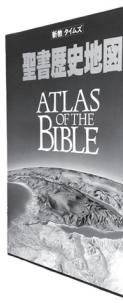
新教タイムズ

プリチャード編

日本語版監修 荒井章三／

定価27524円

聖書歴史地図



壮大で立体的なカラー地図と図版
600点に詳細な聖書時代史を記し、聖書学・考古学・オリエント学・言語学の総力を結集した画期的成果。学校、教会に必携。

カラーバンド聖書大事典



菊倍判・1100頁

定価41796円

4千以上の聖書用語を
71名の専門家が的確に
解説。総カラーページ。

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1

TEL: 03-3260-6148

Email: eigo@shinkyoo-pb.com

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www.zenne.jp/~zen-book/	zeninkan_syoten@yahoo.co.jp
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区136 麻糬坂ビル・アカフ	022-223-2736	共用	http://www.fqcwk524@yb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区千葉2千葉リバーサイドビル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.kyobunkwan.co.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://www.seikaku-pub.jp/	rsk-bookshop@company.email.ne.jp
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info
待晨堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://taishindo@com.home.ne.jp	taishindo@com.home.ne.jp
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491	http://kirisutokyoushohanma@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	biblehouse@bible.or.jp	
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.bibglobe.ne.jp	sksch@mva.bibglobe.ne.jp
清光書店	951-8114	新潟市西区通一番町313	025-229-0656	共用	00650-8-47	
静岡聖文舎	420-0812	静岡市葵区古庄3-18-12	054-264-0264	054-264-4416	info@seibun.co.jp	0810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-128-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepages3.nifty.com/seibunsa/	nagoya-seibunsha@nifty.com
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	kijordan@hbox.kyoto-intel.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地1-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://www.10conne.jp/~osakachts	ochibook@river.ocn.ne.jp
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132	sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-331-9933	01150-7-45120	
広島聖文舎	730-0016	広島市中区幟町7-28	082-228-4914	082-223-0951	01360-4-1958	
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一萬町1-23	089-921-5519	089-921-5413	01650-1-2120	sksch@dokidoki.ne.jp
九州キリスト教センター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbbook.net/	kobookcenter@ybb.ne.jp
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	01750-5-10932	
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本大江4-20-23	096-372-3503	共用	017304-45044	
沖縄キリスト教書店	901-2134	浦添市港川2-25-1	098-877-7283	共用	http://www.okinawachs.com/	okinawachs@yahoo.co.jp
エマオ・BOOKセンター	904-0004	沖縄市中央3-14-2	098-929-3776	共用	020308-1283	emaochs@yahoo.co.jp

既刊案内 (2012年12月～2013年1月) (定価は税込)

著訳・編者	書名	判型	頁定価	版元	発行日	
E.シユーラー著 小河陽訳	イエス・キリスト時代 のユダヤ民族史 I, II	各A5 I=402 II=9,345	9,660	教文館	12/10	
堀江優子編著	戦時下の女子学生たち —東京女子大学に学んだ60人の体験	B 5	904	8,400	〃	12/10
黒木安信	嘆きの谷を通るときも —詩編に聞く II	B 6	232	1,785	〃	12/31
J.ウェスレー著 A.ウルシ誠編訳 坂本誠	心を新たに —ウェスレーによる一日一章	A 5	400	2,940	〃	12/25
加藤常昭監修	C Dで聴く日本の説教 渡辺善太 『CD2枚付き・最終回配本』	四六函入	64	3,575	日本キリスト教団出版局	12/2
森本二太郎=写真 中村啓子=朗読	TOMOセレクト 私は私らしく生きる 水野源三詩集『写真・朗読CD付』	B 5	64	2,940	〃	12/6
芦名弘道	グループスタディ12章 イエスのたとえ話	四六	120	1,260	〃	12/15
R.N.ワイブレイ著 高柳富夫訳	イザヤ書40-66章 —ニューセンチュリー聖書注解	A 5	378	6,515	〃	12/17
J.モルトマン著 蓮見幸恵・蓮見和男訳	わが足を広きところに —モルトマン自伝	A 5	552	5,985	新教出版社	12/10
菊地譲	この器では受け切れなくて —山谷兄弟の家伝道所物語	四六	252	1,575	〃	12/11
坂本優二	八重のこと —新島八重とその同時代人が語り伝えた生き方	四六	267	1,575	〃	12/30
西原廉太	続・聖公会が大切にしてきたもの —宣教の課題と可能性	四六	114	1,890	聖公会出版	12/25
クリストファー・L.ウェッパー著 高橋守・高橋知代訳	聖公会へようこそ —米国聖公会の歴史、信仰、礼拝入門	四六	232	1,890	〃	12/25
一色義子	河井道と一色ゆりの物語 —恵みのシスター・フッド	四六	264	1,890	キリスト新聞社	12/17
森野善右衛門	原子力と人間 —3・11後を教会はどう生きるか	四六	202	1,680	〃	12/17
武岡洋治	闇を変えて	四六	134	1,260	〃	12/17
河東仁編	夢と幻視の宗教史(上巻) —宗教史学論叢17	A 5	405	5,250	リト	12/10
池田勇人	あかし文章道への招待	新書	256	1,050	ヨベル	12/5
大塚野百合	「主われを愛す」ものがたり —贊美歌に隠された宝	四六	230	1,995	教文館	1/10
榎原康夫	使徒言行録講解4 —12-1-5	四六	300	2,625	〃	1/10
出村彰編	シリーズ・世界の説教 宗教改革時代の説教	A 5	486	4,725	〃	1/31
越川弘英・平野克己 大島力・並木浩一	旧約聖書と説教	A 5	128	1,260	日本キリスト教団出版局	1/21
林憲輔・平野克己=監修 大澤秀夫・眞理子・田中かおる・古谷正巳著	10代と歩む洗礼・堅信への道 —志願者用ワークシートCD-ROM付	B 5	144	2,100	〃	1/25
ラウシェンブッシュ著 山下慶親訳	キリスト教と社会の危機 —教会を覚醒させた社会的福音	四六	540	6,405	新教出版社	1/14
神田健次・アン・パイル解説・エッセイ	渡辺禎雄聖書版画集 —くすしきみわ	A 4	188	5,250	〃	1/29
川端純四郎	3.11後を生きるキリスト教 —ブルトマン・マルクス・バッハから学んだこと	四六	94	1,115	〃	1/30
H.ナウエン著 宮本憲	アーマンダム —神の愛した子	四六	176	1,890	聖公会出版	1/15

新教出版社

福音と世界

2013年4月号

特集 功績主義のもたらすもの——格差社会

新自由主義と格差問題

小倉利丸

生來の格差と反映した野宿

野垂れ死にと被爆死

なすび

人として生きるための保障を!!

新城せつ子

「非正規労働」という雇用破壊

大庭伸介

在日外国人への管理・支配

松井悠子

排除が強まつた10年

上村 静

【新連載】「ぶどう園の労働者の讃え」から

永本哲也

旅する教会——再洗礼派と宗教改革

小倉利丸

編集室から

クリスチヤンらしいコメントが、期待されていると感じる瞬間がある。せつかくなので良い種を蒔こうと、頭は一応高速回転を始める。しかし、慣れないことをするのは難しく、いつしか空まわりとなり終了する。

堀多恵子著による『山ぼうしの咲く庭で』（オフィスエム）の一節、「自然体のクリスチヤン」という箇所が心に残っている。小説家、堀辰雄夫人の堀多恵子氏が、自らの半生について語った言葉を一冊にまとめた本である。

クリスチヤンホームで育つた自身の生い立ちから始まり、堀辰雄との生活、夫亡き後はその語り部として過ごす日々が綴られている。

堀辰雄愛読者に向けて作られたものであり、ご本人も意識していらっしゃることが読み取れるのであるが、私はもう一つの側面、クリスチヤンとしての面影が随所に表れているのを読み逃さないわけにはいかない。

戦中戦後、日本が貧しく苦しかった時代では、病人を抱えて食料の調達や、家計のやりくりに奮闘したこと。また、堀辰雄の小説を通して集まつてくる愛読者達への対応では、困ることもあつたこと。代表作である『風立ちぬ』については、妻にしか感じ得ることのできない葛藤も書かれている。

そして、しばらくの間、価値観の相違で遠ざかつた教会の話。楽しいことばかりではない人生、生きていく上で避けられない悲しみや苦しみを何度も経験されているにもかかわらず、全体の印象はとても朗らかで、羨ましく感じることさえある。

堀辰雄のことを語りながら時折織り込まれる、牧師先生との会話や教会の話は、何気ない日常のできことでありながらきっと読者に、良いキリスト教の印象を与えているような気がする。「自然に自然体に」と語る言葉から生まれた種は、私の心にも、心地よい響きとともに落ちた。

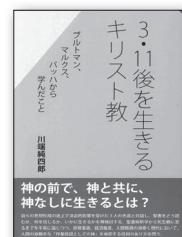
（吉崎）

3・11後を生きるキリスト教

川端純四郎著
アルトマンに師事した著者が、原発事故、経済格差、人間軽視の渦巻く現代で、キリスト者としていかに生きるかを考える。

『福音と世界』連載の単行本化。
◎四六判・94頁・定価115円

A5判・80頁・本体571円・^税68円
年間予約購読料
年間予約購読料
8,016円（消費税込）



〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL: 03-3260-6148
FAX: 03-3260-6198

フランチエスコの祈り「太陽の賛歌」がバターソンの言葉とドルトンの切り絵で鮮やかに読みがえる!!



新刊
絵本

たいようもつきも フランチエスコのうた

キャサリン・バターソン文 パメラ・ドルトン絵 藤本朝巳訳

神さまに感謝をささげるその思いを伝える絵本。
原著は2011年度ニューヨークタイムズ・
ベスト児童絵本賞を受賞。

◆260mm×260mm 上製・32頁・1,575円



聖書学古典叢書 石器時代からキリスト教まで 唯一神教とその歴史的過程

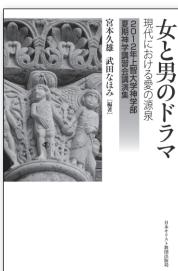


第2回
配本

W.F.オールブライト
小野寺幸也 訳
木田献一 監修
唯一神教誕生の歴史的
過程を実証的に分析し
た聖書考古学の古典。
戦後の成果も踏まえた
最終版より本邦初訳。
◆A5判 上製
450頁・6,300円

女と男のドラマ

現代における愛の源泉
2012年上智大学神学部夏期神学講習会講演集



宮本久雄 編著
武田なほみ

森本あんり、岩島忠彦、
宮本久雄らによる11の
論考とシンポジウムの
記録を収録。女と男の
眞実のドラマに迫る。

◆四六判 並製
336頁・2,940円

ドイツ教会闘争の 史的背景



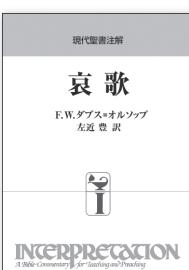
雨宮栄一

民族主義的キリスト教
の勃興、バルト、ティ
リッヒ、ニーメラーら
による批判、ナチスの
教会統制の過程を概観。

◆四六判 並製
360頁・2,940円

現代聖書注解 哀歌

第40回
配本



F.W.ダブス=オルソップ
佐近豊 訳

なぜ神は沈黙しておら
れるのか——。悲嘆の
詩を文学的に分析し、
神の御業、沈黙、不在
の信仰的意味を探る。

◆A5判 上製
274頁・5,670円

コンパクト・暗示文学の世界

M・ヒンメルファーブ 高柳俊一訳

● 2,415円



古代ユダヤ教に生まれ、現代に至るまで、人々を突き動かしてきた暗示思想とは何か？暗示文学の生成と展開をテーマに則して紹介。歴史の終末のヴィジョンを描く。

内村鑑三における「個人・信仰共同体・社会」
岩野祐介

日本の近代化と

プロテスタンティズム

上村敏文・笠谷和比古編

● 4,725円



アジア諸国の中でもっとも早く近代化に成功した日本。その推進力となつたプロテスタンティズムの日本社会での受容過程とその後の展開を広範にわたつて検証する。

本井康博 「神戸バンド」と「熊本バンド」
徳富蘇峰の師友たち

徳富蘇峰を中心に読み解く初期同志社の学生群像。キリスト教への篤い志をもつ若者たちの姿を、新島襄研究40年の著者が日米双方の資料を駆使して描きだす。

● 3,990円

3月の新刊のご案内



N・タダ
野谷啓二訳

● 3,360円

迫害、改革、分裂など難問に直面しながらも、世界宗教に発展し、「教皇退位」報道で全世界からその動向が注目されるカトリック教会。その膨大な歴史を、エキュメニカルな視点でコンパクトにまとめた、教会の歴史と伝統を理解するための必読の書。

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館

本のひろば
第六六号 二〇一三年四月号

一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可
二〇一三年四月一日発行 (毎月一回・日曜発行)

発行所

電話〇三一三二六〇一六五二〇

振替〇一七〇一五一一六七九

本村利春 (編集人) 白田浩一 (印刷所)

日本キリスト教書販売株式会社

電話〇三一三二六〇一五六七〇

東京都新宿区新川町九一

一般財団法人キリスト教文書センター

〒160-0024

東京都新宿区新川町九一

一般財団法人キリスト教文書センター

電話〇三一三二六〇一六五二〇

振替〇一七〇一五一一六七九

本村利春 (編集人) 白田浩一 (印刷所)

平河工業社

電話〇三一三二六〇一五六七〇

日本キリスト教書販売株式会社

電話〇三一三二六〇一五六七〇

定価七五円 (税抜七一円) (税込六〇円)

一年分一三〇〇円 (送料共)

発行人

本村利春

編集人

白田浩一

印刷所

(株)平河工業社

電話〇三一三二六〇一五六七〇

日本キリスト教書販売株式会社

電話〇三一三二六〇一五六七〇

日本キリスト教書販売株式会社